# 館長のガラストーク

妖精の森ガラス美術館　館 長　畠山　耕造

## 19世紀イギリスのウランガラス

エパーン 1896年 スタウアブリッジ地方

ワイングラス 1860年代 マサチューセッツ地方

女王陛下のバーミーズ 1886年 トマス・ウエッブ&サン社

コンポート 19世紀後半 デヴィッドソン社

イギリスでは1810年代に早くもウラン実用化の試みが行われ、1830年代にはホワイトフライアーズ社などがウランガラスの生産を始めました。1840年代に、アメリカで急速な進展を見せた“プレスガラス”の技術が導入され、ガラスの量産化が進むと共にウランガラスの生産量も増大します。19世紀半ばにボヘミアやフランスの色ガラスの影響が強まり、また、ガラスに対する物品税の廃止もあって新しい色ガラスの開発が急速に進められ、ボヘミアの製品に匹敵する多彩な色調を生み出すまでになりました。

北東イングランドのジョージ・デヴィッドソン社では淡い黄色のガラスの口縁部に白いオパルセントの装飾を持つ“プリムローズ・パーライン”のシリーズが作られました。スタウアブリッジ周辺では、食卓の上に飾るガラス製の“エパーン”が流行しました。トマス・ウエッブ&サン社はアメリカのマウント・ワシントン・グラスやと“バーミーズガラス”と呼ばれる金を含む赤いウランガラスの特許の使用契約を結んでイギリスで生産を始めました。同社はこのガラスに“女王陛下のバーミーズ“と名前を付け好評を博しました。

ほかに、南ヨークシャーのノッティングレーに設立された「バグレイガラス社」やイングランドのスタウアブリッジに設立された「スティーブンス&ウィリアム社」などもウランガラスを制作しています。

**☆ウランガラスによる吹きガラス体験のご案内**

妖精の森ガラス美術館では、9月19日（土）から毎月10名様限定で、唯一の国産ウランガラス「妖精の森ガラス」を用いた吹きガラス体験を行います。この機会に世界でたった一つのオリジナルグラス作りにトライしてみてください!

期　間：2015年9月19日（土）～2016年3月27日（日）<土日祝祭日>
料　金：4,500円

〈展覧会情報〉きらめきのウランガラス―その源流を尋ねて― 2015年7月15日（水）～2015年12月7日（月）

**お問い合せ先**　妖精の森ガラス美術館　電話（0868）44−7888

# 文化財の指定・登録

このたび、新たに1件の文化財が町指定文化財に指定され、2件の文化財が町登録文化財に登録されました。なお、町登録文化財制度は、「指定文化財に次ぐ価値のあるもの」「将来的に指定文化財になる可能性のあるもの」を評価・顕彰する目的で平成23年度に作られた制度です。

## 指定文化財

**①ウスイロヒョウモンモドキ生息地（天然記念物）**

所在地：上齋原
所有者：鏡野町上齋原財産区

ウスイロヒョウモンモドキは、環境省レッドデータブックに絶滅危惧種Ⅰ類に分類されており、県内では新見市・新庄村・鏡野町にしか生息しない。

## 登録文化財

**①寶樹寺大般若経600巻**
**附：寄進簿、證、校異、木板（歴史資料）**

所在地：奥津川西
所有者：松隆山寶樹寺

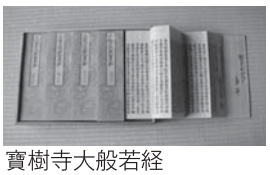
弘化3年（1846）寄進。600巻全て揃っており、関連する資料は奥津の幕末の鉄山経営を知る上で貴重な資料です。

**②泉神社棟札（3点）（歴史資料）**

所在地：女原
所有者：泉神社

慶長16年（1611）、寛永14年（1637）、元禄6年（1693）の年号をもつ棟札

ウスイロヒョウモンモドキ



寶樹寺大般若経

泉神社棟札